

令和2年度下水道広報プラットフォーム(GKP)理事会 議事録

日時：令和2年6月24日（水） 10時～12時

場所：「Zoom」によるリモート会議

出席者：

＜理事会＞

長岡裕会長、中村靖副会長、渡辺志津男副会長、塩路勝久理事、亀田泰武監事、岡久宏史アドバイザー、諸富里子アドバイザー

＜企画運営委員会＞

本田康秀委員長、栗原秀人副委員長

＜事務局＞

武田裕一氏、深瀬翔子氏、中山勲

【議事】

1. 長岡会長あいさつ

本日は、総会議案の審議と併せ、GKPの今後の方向性についても忌憚のないご意見を賜りたい。

2. 議長選任

長岡会長を議長に選任した。

3. 議案審議

(1) GKPの今後の進め方について

GKPの今後の進め方の提案事項について、本田企画運営委員長より説明。

＜実行委員会形式と協賛金＞

- ・ 実行委員会形式でプロジェクトを進めるに当たり、以前は会長名や企画運営委員長名で協賛金を募ることがあった。しかし、今後はそれぞれの実行委員会の責任においてお金を集めていただく考えである。
- ・ この場合、協賛金はGKPの財布を介さずに実行委員会が直接管理することとし、GKPはその収支等を情報として把握する。
- ・ 実行委員会が協賛金を集める際、企画運営委員会は「こういったところに声をかけてはどうか」といったフォローも必要ではないか。すべて実行委員会に任せてしまうとリスクもあるように感じる。

＜企画運営委員の公募＞

- ・ 企画運営委員への応募条件に「GKP会員であること」とあるが、自治体が会員になるのは難しいのではないか。
- ・ 企画運営委員の公募において、自治体は別枠として捉えている。具体的には、GKPが協力をお願いしたい自治体に対し、会長がその自治体の職員を企画運営委員に指名することができるというものである。

- ・ 企画運営委員会の公募制度をより効果的に活用するためには、GKP の認知度を高める仕掛けも必要だと思う。

<人材>

- ・ GKP を今後どう育てていくかを考える上で、最も重要なのは人材だと思う。
- ・ センス、アイデア、実行力を兼ね備えた次世代の育成を考える時期にきているのではないか。
- ・ 若い人の参画を進めてほしい。

<情報の共有>

- ・ 他団体で行われている広報活動を集めて情報共有する仕組みが必要ではないか。
- ・ GKP 広報大賞がその側面を担っているが、創設以来応募件数が増えてこない（本年は新型コロナの影響で例年以上に苦戦）課題を抱えている。
- ・ 下水道協会は、全国の自治体の広報事例を共有するためのサイトを協会員向けに運営している。
- ・ 下水道協会のサイトは自治体の広報活動を中心に構築されているとのことだが、それ以外の広報主体もあるものと考えられる。
- ・ 情報共有は GKP 設立当初からの課題。具体的な方策を是非検討していただきたい。
- ・ GKP 内の情報共有も必要。例えば、長野でじゅんかん育ちファームの運営を行っているが、そのようなプロジェクトの進捗や会員個々の活動など、イベント以外の小さな動きも会員間で共有できるようにしてほしい。
- ・ 企画運営委員以外の会員が企画運営委員会に情報を持ち込める環境づくりが必要ではないか。

<事務局機能の強化>

- ・ 下水道協会の職員を増やすのはなかなか難しい。
- ・ 協会の広報課には今まで以上に積極的な GKP との関わりを持っていただきたい。
- ・ 広報課としては、各プロジェクトに参加されている方々が活躍しやすい環境づくりに注力したい考えである。

<GKP 機能の見直しの考え方について>

- ・ 今まで、企画運営委員会と会員とのつながりが弱かった（メルマガの配信、サイトでの情報発信などに限られていた）感がある。今後は、どのように会員とのつながりを変えていく（強化していく）のか、あるいはプラットフォームを活用して会員がどう動くのか、その具体的なイメージを図に反映できたらよいのではないか。
- ・ ご指摘いただいた点については、事務局の運営方法や戦力等を加味した上で、具体的なインプットとアウトプットを考えさせていただきたい。

- ・ OS とアプリの関係で整理した意図は理解できる。ただ一方、ハードウェア（コンピュータ）をこの図の中に入れ込んだ場合、どのようなイメージになるのかが知りたい。さきほど指摘があった会員との関係も、ハードウェアの位置づけが不明瞭なため、ぼやけてしまっているのではないかな。
- ・ この図を作成する際、ハードウェアの位置づけは想定していなかった。一方で GKP の場合、OS は何で成り立っているかということ、会費と人材そのものである。そういう意味では、OS という枠の中に会員がすっぽりとはまっているのが良くないのではないかと感じる。改めて整理し直したい。
- ・ 私の考えるコンピュータは、下水道界そのものである。つまり、下水道界があって、GKP があって、ひとつひとつのアプリ（企画）が並ぶ。そして、その上に会員がいて、会員はプラットフォームを活用してやりたいことを進めていくイメージ。
- ・ OS はハードウェアの抽象化やリソースの管理、コンピュータの利用効率の向上などを担う部分である。そうした機能をこの図に置き換えて考えることもできるのではないかな。
- ・ コンピュータ＝下水道界はデコボコしているので、企画（アプリケーション）を立ち上げようとした時に障害が生じる場合がある。その時に、間に入る GKP という OS がデコボコをならしていったら、企画の実現に結び付けるイメージが想定される。
- ・ 図に落とし込むかどうかは別として、下水道界全体における GKP の役割をイメージとして共有することが望ましい。
- ・ 「新規参入」や「独立」は、企画運営委員会で判断するという理解でよいか。
→その方向で考えている。
- ・ GKP 未来会が他のプロジェクトと同列に並べられているが、未来会は GKP の核になる取り組みであり、このようにアプリの一つとして位置付けられてしまうのは悲しい。
→プロジェクトによって活動成果や広がり、発信力に大小の差があるのは確かである。ただ、この図はあくまでも OS とアプリの関係を示したもので、プロジェクトの大小を反映する必要があるのかということ、そこは疑問が残る。
ただ、活動報告書においては、今の GKP の「売り」として未来会などの大きな成果を上げているプロジェクトを頭にもっていくこととしたい。

< 下水道職員へのエール、期待 >

- ・ 豪雨災害をテーマに昨年開催された学術団体シンポジウムにおいて、下水道従事者の登場がなかった。また、下水道調整池が活躍しているので、その状況を報告してもらう場を作ろうとしているが、いろいろな問題をかかえているのか公共団体側が尻込みしていて、実施できず残念である。

- ・ 一方、東京湾大感謝祭で行われたシンポジウムは 1/4 が下水道の話だったにも関わらず、その場に下水道関係者の姿が見られなかった。
- ・ もっと自治体等の関係者が出やすい環境をつくり、「働く下水道」を語る機会を増やしていくべきではないだろうか。

(2) 令和 2 年度定時総会への付議事項について

① 令和元年度事業報告及び収支決算について

事務局より令和元年度事業報告及び収支決算について説明し、承認いただいた。

<協賛金の記載について>

- ・ 本来、協賛金は GKP の財布を介していないので収支決算書に記載する必要はないが、企画の規模感を知ってもらうという意味で有意義なデータであると考えている。

② 令和 2 年度事業計画（案）及び収支予算（案）について

事務局より令和 2 年度事業計画案及び収支予算案について説明し、承認いただいた。

③ 役員等の選任について

事務局より役員等の選任について説明し、承認いただいた。

(3) 企画運営委員会 委員名簿（参考資料）について

事務局より企画運営委員会の名簿について説明し、承認いただいた。

<企画運営委員の出席率等について>

- ・ 企画運営委員の出席率は、1/2～2/3 である。
- ・ 公務との兼ね合いも影響していると思われるが、このところ自治体の委員の方の出席率が落ちている。
- ・ 自治体の方に対し、「GKP が何を期待して企画運営委員になっていただくか」ということが今一つ明確になっていないのではないか。これから進める企画運営委員の募集に関する要綱づくりの中で、こうした点についても議論していきたい。
- ・ 自治体で実行部隊にいる方に委員をお願いする手もあるのではないか。

4. その他

<小林理事から事前にお寄せいただいたご意見について>

- ・ 新型コロナウイルス感染症の初期兆候を下水で検知する技術が報道されているが、このような日本の最先端の下水道技術を、延期された東京オリンピック・パラリンピックに合わせて発信することを検討すべき。
- ・ 下水道が頑張っている事例を全国から集めたい。

<総会について>

- ・ 従来のように大人数を集めて開催するのは難しいため、Web 上で付議事項の賛否を問う方針である。
- ・ 現在、事務局で Web 決議のルール固めなどを行っており、詳細が決まり次第ご案内させていただく。
- ・ Web では単に賛否を問うだけでなく、自由に記入できる意見欄も設ける。
- ・ アクセスがない会員は賛成したものとみなす運用を検討する。

以上